



外科病棟所属の特定ケア看護師の働き方

練馬光が丘病院特定ケア看護師 菅谷恭子

施設背景，所属配置

皆さん，はじめまして。練馬光が丘病院の心臓血管外科で特定ケア看護師として勤務している菅谷と申します。

はじめに当院と，当院がある練馬区についてご紹介します。当院は342床（ICU：6床）の急性期病院で，29の診療科があります。練馬光が丘病院は東京都の北部に位置する練馬区にあります。練馬区の人口は約74万人，うち65歳以上の高齢化率は約21.7%となっています。ちなみに東京都全体の高齢化率は約22%，全国平均は約26%となっています。また，平成26年時点での練馬区の病院数は17病院，病床数は2,006床で人口10万人あたりの一般病床・療養病床数は23区で最も少ない281床であり23区平均の約3分の1となっています。入院を必要とする区民の約7割は区外の病院に入院し，救急患者の約6割は区外へ搬送されています。医療機関を月1回以上受診する高齢者の割合は約8割となっています。つまり，医療機関を必要とする高齢者の需要に対しての供給が不足している地域であるという特徴があります。

さらに，練馬区での心臓血管外科を有する病院は当院のみとなっています。当院の心臓血管外科は2019年7月より東京都大動脈ネットワーク重点病院（都内に15施設）になり，積極的に緊急患者さんを受け入れており，24時間365日緊急手術に対応しています。2019年の心臓胸部大血管手術は114例であり，緊急・準緊急手術が47%，80歳以上が22%となっています。

特定ケア看護師を目指した経緯

このように24時間365日緊急患者を受け入れている診療科ですので，緊急手術が続くことも少なくありません。私はもともと当院の循環器・心臓血管外科病棟で働いていましたが，医師が手術で病棟不在の時間が多く，日常の処方が遅れることのストレスや，バイタルサインが不安定な患者さんへのケアに不安を感じていました。医師の指示待ちをしなければいけない状態を課題と捉え，その課題を解決すべく，臨床推論・特定ケアを提供できる存在になろう，今いる環境で活躍したいと考えJADECOM-NDC研修センターを選択し特定ケア看護師になりました。また，NDC研修センターは当院や東京ベイ・浦安市川医療センターの関わりがあり信頼できる医師から学ぶことができる，実習先や研修後の勤務先も明確であり，職場を離れずオンラインで効率的に学ぶこともメリットだと判断しました。

日々の活動

日常の業務は手術をする患者さんの術前後の検査の確認，薬の調整から発熱や低酸素などの症状に対して介入を行っています。薬剤では血糖管理や利尿薬，ワルファリン，抗菌薬を調整することが多いです。発熱した患者さんに，病棟看護師時代は医師の手術が終わるまで待つしかできませんでしたが，特定ケア看護師として必要な情報を集め，医師と相談しながら各種培養や画像検査をオーダーし，抗菌薬投与ができることに存在意義を感じています。



練馬光が丘病院 心臓血管外科チーム



院内RRSレクチャー

また、患者さんを術前から、手術、術後ICU、ICU退出後と継続してみるができるため病棟や手術室、ICUで関わるスタッフと患者さんの状態や治療について情報共有することでシームレスな医療の提供につながっていると考えます。特にメリットを感じている点が、ポリファーマシーや摂食・嚥下ケア、せん妄対策です。薬剤師と入院中に必要な薬剤を調整し、看護師やリハビリスタッフと摂食・嚥下やせん妄対応について協議し、皆で安全な入院を調整できていると感じます。看護師の業務拡大によって患者さんに必要なケアを迅速に提供し、医師だけでなく看護師やコメディカルの業務負担を減らすメリットがあると考えており、今後のニーズの拡大を感じています。

私が当科で対応した症例は、1. 術後の片側の下腿浮腫に対しエコーでDVTを確認し採血オーダー・wells score評価後に医師へ報告し、造影CTオーダー、抗凝固薬を治療開始したものの、2. 大動脈術前の心電図で異常を見つけて冠動脈評価が追加され狭窄病変が見つかったものの、3. 若年者の術前からの高血圧症に対し二次性高血圧スクリーニング検査を行いレニン高値にて腎動脈狭窄が見つかり、組織異常疑いにて専門病院に紹介されたもの、などがあります。また、同病棟でのRRS(Rapid Response System, 院内救急対応システム)対応としては頻脈や低酸素、呼吸困難感等の患者さんの対応をしています。2019年12月号での横須賀市立う

わまち病院の畑貴美子さんの記事でも詳しく書かれています。病院における特定ケア看護師のRRS活動の意義は、院内の医療の安全・質を保持するために不可欠な存在だと考えます。

今後の活動目標

医療の安全・質保持のために自身の学びの継続、RRS活動、看護師教育に力を入れていきたいと考えます。特に看護師教育では研修や勉強会で知識をアウトプットする機会が増え、今後も院内外の教育活動を継続していきたいと考えています。当院では特定行為が実施できる看護師(特定ケア看護師・診療看護師・認定看護師)が複数名勤務しており勤務体制や活躍の仕方の整備も検討していく必要があります。

また、私は心臓血管外科に所属していますが、一番必要とされる力は内科的アセスメント力であり、日々アップデートされる標準治療を学ぶ必要があります。症例ごとに自身の知識の不足を感じますが、医師と治療方針についてディスカッションできるよう、コメディカルに分かりやすく説明できる力を身に付けたいと思います。さらに、私たち特定ケア看護師は医師が少ないへき地での活躍を目的に研修を受けており、目的を達成できるよう医師からの指導を受け、また特定ケア看護師・診療看護師の先輩方の働く姿から学び、成長していきたいと考えています。